

講義名	対1)19-観光文化論/15-文化観光論			授業形態	
担当教員	山川 拓也	開講期・曜日・時間	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

本科目では「人間の文化としてのツーリズム（観光文化）が、私達の生活や生き方にとってどのような意味を持つのか、社会全体においてどのように受容されているのか」という根本的かつ比較的大きなテーマに対し、人文社会学的な視点・レンズを通して探究していく。関係する知識・概念等の習得をもってツーリズムの文化構造について理解し、今や我々の生活の一部となった「観光」の意義と重要性を一層深く認識できるようになることを目指す。

具体的には、以下の内容について学修する。

- ・旅や観光という現象がどのような形で行われてきたかを中心に、それらが社会に与えた影響や時代毎の評価など、過去における観光の姿を理解する。
- ・20世紀以降における観光の特徴的な動きについて、主要テーマ毎に紹介することにより、現代の人が好み、求める観光の形を把握する。
- ・20世紀後半から議論され始めた「新しい観光」の概念を理解し、現代社会において観光がどう評価されているかを検証し、これから私達は観光にどのように向き合っていくべきなのかを考える。

到達目標

・関係する知識・概念等の習得をもってツーリズムの文化構造を理解し、人間社会における生活文化としての「観光」の意義と重要性を認識できるようにする。

提出課題

- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」（responで実施予定）
- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「理解度確認（小テスト）」（Ryuka portal内のmoodleで実施予定）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「理解度確認（小テスト）」に関しては、Ryuka portal内のmoodleにフィードバックを開示する。また「ミニッツ・ペーパー」の記載内容で解説を加える必要があると認められたものは、適宜それも共有する。

評価の基準

下記による総合評価とする。

毎回の「理解度確認（小テスト）」の累積得点率：50%

期末試験（対面方式にて実施予定）：50%

- * 毎回の出席確認は、responを用いて厳格に実施する。
- * 「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、教室に居た者であっても当日の出席は無効とする。
- * の「理解度確認（小テスト）」の提出がない場合、得点は0（ゼロ）点となり、成績評価に影響を及ぼす。
- * 累積の欠席回数が多い場合、評価を受ける資格がなくなる。（欠席/E）
- * 遅刻（時間の長短を問わない）は、2回で1回の欠席としてカウントする。
- * スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
- * ミニッツ・ペーパーの記述内容が優れた場合、一定基準のもとで加点する。

履修にあたっての注意・助言他

本科目は、人間社会学部の「学部専門基礎科目」に位置づけられる。その意味とは、所属する学科に関係なく人間社会学部の学生が専門科目を受講する上での共通基盤を形成できるようにするものである。したがって、本科目の意義と重要性を十分に認識して受講することを切に期待する。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考文献

.観光文化学 旅から観光へ、	飯田芳也	古今書院	2750	9784772231473
.ツーリズムと文化体験 “場”の価値とそのマネジメントをめくって、	安福恵美子	流通経済大学出版会	2970	9784947553393
.よくわかる観光社会学（やわらかアカデミアム わかる シリーズ）	須藤廣（編集）、遠藤英樹（編集）、高岡文章（編集）	ミネルヴァ書房	3080	9784623091874
	松本健太郎（編集）			

その他

プリント資料：毎回の授業では講義レジュメを配布し、パワーポイントを使用して授業を実施する。

授業計画

- 【ガイダンス・問題】科目概要・授業方法・成績評価等の説明（ガイダンス）、「旅の原点」について（問題）
- 【観光と文化】観光と文化のさまざまな関わり、「ホスト&ゲスト論」
- 【観光の起源】古代から中世までの観光の歴史と文化的形態
- 【観光と教育】「学びとしての観光」の文化的形態
- 【パカンスと観光】「保養」としての観光の文化的形態
- 【近代観光の始まり】19世紀に成立した近代観光の文化的形態
- 【マストツーリズムの台頭】20世紀になって隆盛した大量消費型観光の文化的形態
- 【団体旅行と個人旅行】近年における旅行スタイルの変化と多様化
- 【テーマパークと観光】観光における「非日常性の演出」
- 【伝統芸能イベントと観光】観光における「真正性」
- 【伝統的宿泊施設と観光】観光における「文化の商品化」
- 【観光が生む「負の効果」】「観光公害」と「オーバーツーリズム」
- 【観光とサステナビリティ】観光とSDGsの関係
- 【観光の未来】「消費」に対するニーズ・トレンドの変化
- 【まとめと総括】

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- （予習：120分/回）
新聞や雑誌を含む書籍類、インターネット等のメディア情報にアクセスし、授業内容や観光文化に関連する情報を収集しておく。
- （復習：120分/回）
当日の授業を整理するとともに、テーマに関する動画類を検索・視聴するなど、学修の効果的定着に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は「人間社会における生活文化としての観光」について学ぶために開講されるものであって、本学のDP（卒業認定・学位授与の方針）に示される以下の項目に対応するものである。

- ・現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。（課題発見力）
- ・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる。（情報分析力）

尚、本科目は、学部共通DPに示される項目『財やサービスの流通に関わる社会の構造と変動、およびそれをもたらす人間の行為・行動を解き明かすことができる人材の育成』にも対応している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・毎回の授業後に実施する「理解度確認（小テスト）」や「ミニッツ・ペーパー」等の課題への取り組みにおいて、moodleやrespon等のICTを活用する。
- ・必要に応じて授業中でもresponを使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
旅行業および旅行サービス手配業での実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画構成、営業、添乗、海外駐在、市場戦略策定）により得た知識・知見を活用し、分かりやすい事例紹介なども取り入れながら、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考

- ・新型コロナウイルスの感染状況ならびに科目の進捗状況等によって授業方法や内容を変更する場合があります。その際には事前に告知する。